

あした 未来へつなぐ

【環境対策のために】

環境保全のために私たちができること。
この北海道で地域と人のために私たちができること。
JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。
「未来(あした)へつなぐ」ために。

写真・文=本間 吾里砂



外壁への設置は、最も効率的な設置条件と比べ、発電量、CO₂削減量ともに約70%の成果を得られることがわかった



刻々と変わる天候の状態に応じてデータを発信する表示装置

太陽光パネルの最も効率的な角度は三〇〜五〇度で、屋根や屋上部分に南向きに設置するのが理想的。ただ、

鉄 道からIT関連まで、電気設備工事全般を手がけるドウデン。太陽光発電や風力発電などの自然エネルギーが注目される中、同社でも昨年六月に「太陽光発電実証設備」を本社社屋に設置し、主に環境対策に役立てるためのデータ収集に乗り出しました。

設置二年目を迎えた今年、同社では環境対策としてだけでなく、収集したデータとあわせてビジネスとしての取り組みを行っています。

北海道の場合は積雪の問題があるため、同社では五十枚のパネルを南西側の外壁一面に取り付けました。発電量やCO₂削減量がひと目でわかる表示装置により、パネルによる成果をデータで発信。設置から一年が経過し、CO₂排出量については、年間約三・七t-CO₂の削減効果があることがわかりました。

総合広告会社としてさまざまなイベントを手がける北海道ジェイ・アール・エージェンシーでは、環境対策の一環として平成十七年に「リターナブル食器レンタル事業」をスタート。有名どころでは、『ふらのワ

ターナブル食器』とは、洗って繰り返し使う食器のこと。多くの人が集まるお祭りやイベントで飲食に使われるのは、そのほとんどが便利で安価な“使い捨て食器”です。ただ、それらを廃棄処分したり、リサイクルするためには、そのためのエネルギー資源が必要。山梨大学の調査によると、“リターナブル食器”は“使い捨て食器”と比べ、使えば使うほど環境負荷軽減率が高くなるそうで、本州を中心にここ数年利用が増えています。

イン・ぶどう祭り』など、道内各地で行われるイベントで利用されています。この七月から札幌市でゴミの有料化が始まりましたが、同事業はゴミ問題や環境問題など、現代社会が抱える課題に込めるビジネスともいえそうです。



PRポスター



発送用コンテナとリターナブル食器。箸、スプーン、カップ、小皿など、3000~5000個を用意。今年は山梨を拠点に事業を展開する「スペースふう」の協力のもと、事業拡大を目指す

太陽光発電実証設備を設置し、CO₂削減効果をデータにて実証！
「ドウデン」

ゴミ問題や環境問題にこたえる
「リターナブル食器レンタル事業」
「北海道ジェイ・アール・エージェンシー」